

令和6年度 一般社団法人長野伊那谷観光局 事業報告（概要版）

はじめに

長野伊那谷観光局は、「山と谷の風景美術館～2つのアルプス、彩の谷の物語～」をコンセプトに、また「護られし 実りの國～The Valley of Peace & Harmony～」をコアイメージ（世界観）とし、国・長野県・近隣広域組織・地域住民等と連携し、官民一体となって上伊那地域の「観光地域づくり」を進めてきました。

2024年の訪日外客数は3,686万人と過去最高を更新し、国は観光を地域活性化の柱と位置づけ、インバウンド誘客や持続可能な観光地域づくりを推進しています。長野県においても観光需要は回復しつつあり、宿泊税導入に向けた検討も進められています。一方、上伊那地域では観光利用者数がコロナ前水準まで回復しておらず、誘客の強化が課題となっています。こうした状況の中、当観光局では地域関係者と連携し、地域の魅力の発信や観光コンテンツの検討、広域連携の推進などに取り組み、将来の観光振興に向けた基盤づくりを進めました。

1 情報発信力強化事業

当地域の魅力を広く伝えるため、ホームページやSNSを活用した情報発信を昨年度から継続して行いました。個人の動画作成における企画・技術のスキルアップと、地域住民に伊那谷にまつわる質の高い情報発信を行ってもらうことを目的に、SNS情報発信強化講座を全5回開催し、延べ61人が参加しました。講座では、動画の企画方法や撮影技術、編集方法などを学び、地域の魅力を効果的に発信するスキルの向上を図りました。

また、地域住民ライターによるInstagram投稿を71本実施し、当地域の観光コンテンツ、食や文化などの多様な魅力を継続的に発信しました。さらに、会員等との共同投稿を8本実施し、地域事業者と連携した情報発信を行いました。これらの取り組みにより、当地域の認知度向上と来訪意欲の向上を図りました。

2 インバウンド誘客推進事業

インバウンド旅行者の受入環境整備として、宿泊事業者向けの対応研修を全3回開催し、延べ69人が参加しました。研修では、インバウンドに関わる観光の動向や来訪者の特徴、接遇方法、言語対応などについて学び、受入れに対する理解を深めました。

これらの取り組みにより、地域の宿泊施設や観光事業者が安心してインバウンド来訪者を受け入れるた

めの基盤づくりを進めました。また、SNS等を活用して多言語（英語）による情報発信を継続的に行うことでインバウンド市場における当地域の知名度向上を目指しました。

3 サイクルツーリズム協働推進事業

当地域の食・歴史・暮らし等の魅力を伝えることができるツールとして自転車を活用した旅の提案、サイクルツーリズムの推進に取り組みました。令和5年度に造成した3つのコースを対象とした体験会を実施し、延べ30人が参加しました。

体験会では、参加者から実販売に向けた改善点等の意見をもらい、各コースの磨き上げを行うことができました。

4 来訪者満足度調査事業

当地域への旅行者を対象に満足度調査を実施し、1,077件の回答を得ました。調査では、来訪者の当地域に対する満足度や再訪意向、地域の魅力に関する評価などを把握しました。

調査結果は、観光関係事業者と共有し、サービスの改善や観光コンテンツの充実、情報発信の改善などに活用しています。今後も継続的に調査を実施し、より満足度の高い観光地域づくりに取り組みます。

5 国内旅行商品造成

当地域の魅力再発見と観光事業者への支援を目的として国内旅行商品の造成に取り組みました。令和6年度は4本のツアーを催行し、延べ63人が参加しました。参加者の満足度は96.4%と高い評価を得ており、地域の魅力を体験できる機会として好評を得ました。

「絶景もみじ湖紅葉とりんご狩り」では、当地域の売りである「もみじ湖の紅葉」と「りんご狩り」を組み合わせることで参加者から高い評価を得ました。今後も当地域の魅力的なコンテンツを組み合わせた旅行商品の造成・販売を進めていきます。

6 広域観光の連携

南信州地域、木曾地域と連携し、住民協業による観光コンテンツの開発や海外市場に向けたプロモーションを行いました。

また、持続可能な観光地域づくりを推進するため、市町村向けの勉強会を開催し、指標を用いた持続可能な観光地域づくりの取組みを可視化する意義などを学習しました。さらに、各市町村においてGDSコア項目のアセスメントを実施し、持続可能な観光地域づくりにおける現状把握ができました。